

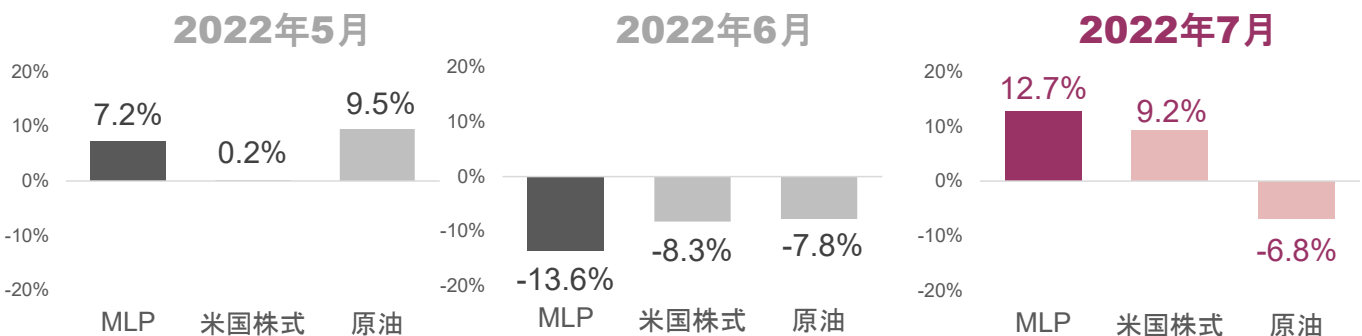
当月のS&P MLP 指数の動き

7月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比 +12.7%と2カ月ぶりの上昇となりました。

月初は、米国の景気後退への懸念の拡がりなどを背景に原油価格が大きく下落する中、MLPも下落基調となりました。しかしながら、中旬以降は、米国でのインフレ期待の低下や総じて市場予想より良好な米国企業決算などを受け、米国株式市場が上昇する中、MLPも上昇基調となりました。月末にかけては、米週間統計において原油在庫が市場予想以上に減少したことが好感され、原油価格が上昇したことなどから、S&P MLP 指数は5連騰しました。

過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3カ月前月末	前年末	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
	2022/7/31	2022/6/30	2022/4/30	2021/12/31			
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	5,697.61	5,055.89	5,460.47	4,495.14	12.7%	4.3%	26.8%
プライスリターン	1,299.14	1,160.70	1,267.76	1,071.99	11.9%	2.5%	21.2%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	8,730.46	7,993.43	8,696.65	9,986.70	9.2%	0.4%	-12.6%
プライスリターン	4,130.29	3,785.38	4,131.93	4,766.18	9.1%	-0.0%	-13.3%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,255.99	1,144.73	1,188.53	868.26	9.7%	5.7%	44.7%
プライスリターン	598.74	546.24	572.41	422.74	9.6%	4.6%	41.6%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,704.14	1,563.87	1,798.15	1,959.66	9.0%	-5.2%	-13.0%
プライスリターン	363.82	334.31	387.38	425.81	8.8%	-6.1%	-14.6%
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,438.94	1,357.20	1,452.69	1,578.79	6.0%	-0.9%	-8.9%
プライスリターン	67.74	64.22	69.46	76.94	5.5%	-2.5%	-12.0%
米国10年国債利回り							
	2.65%	3.01%	2.93%	1.51%	-0.36	-0.28	1.14
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	98.62	105.76	104.69	75.21	-6.8%	-5.8%	31.1%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	8.23	5.42	7.24	3.73	51.7%	13.6%	120.6%
米ドル (対円)							
	133.27	135.72	129.70	115.08	-1.8%	2.8%	15.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 5日、ノルウェーの石油・ガス業界の労働者が賃上げを求めてストに入ったことなどを受け、欧州の天然ガス価格が急騰した。欧州景気の後退懸念が強まり、銅などの非鉄金属が売られたほか、原油先物も急落し、WTIで1バレル＝100米ドル割れとなった。連休明けとなった米国では、国債利回りが低下し、一時、10年債利回りが2年債利回りを下回り、約3週間ぶりに長短金利が逆転した。
- 7日、中国財務省が、地方政府の来年の特別債券発行枠を活用し、今年下期に1.5兆元(約30兆円)相当の債券の前倒し発行を許可することを検討していると報じられた。調達資金の大半がインフラ投資に使われる見通しとされ、新たな大型景気対策への期待から、欧米株式が続伸した。また、非鉄金属や原油先物も買われ、WTI原油先物は102米ドル台に反発した。
- 21日、定期点検で11日から停止していた、ロシアと欧州を結ぶパイプライン「ノルドストリーム1」を通じた天然ガスの供給が再開した。WTI原油先物は、ノルドストリーム1の再開などを受けて続落した。
- 22日に発表された、7月の総合PMI(購買担当者指数)速報値が、ユーロ圏、米国ともに低水準となった。景気後退懸念から欧米の国債利回りが低下したほか、原油先物が続落し、WTI原油先物は94米ドル台で引けた。
- 27日、FRB(米連邦準備制度理事会)は、2会合連続となる0.75ポイントの利上げをFOMC(米連邦公開市場委員会)で決定した。パウエル議長は会見で、次回9月も大幅利上げとなる可能性もあるが、判断はデータ次第と述べたほか、将来、利上げペースを緩める可能性に言及した。これを好感し米国株式市場が上昇する中、EIA(米エネルギー情報局)が発表した週間の在庫統計で原油在庫の減少幅が市場予想を大幅に上回ったことなどもあり、WTI原油先物も大きく上昇した。

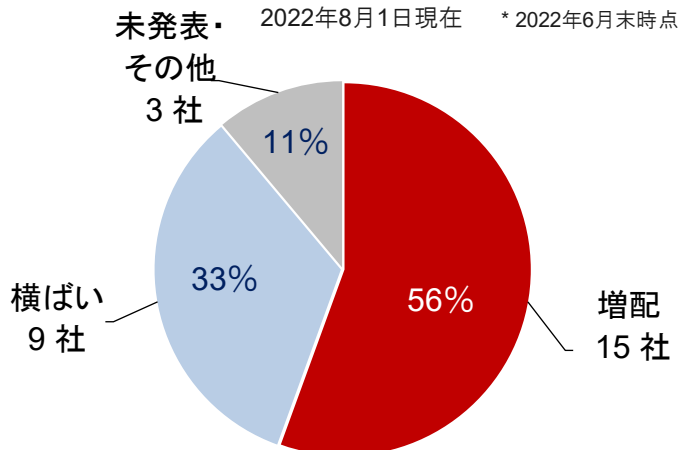
今後の注目点

- 2022年4-6月期のMLPの決算発表が注目される。

MLPの分配金動向

MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。7月から公表が始まっているMLPの2022年4-6月期の分配金は、8月1日現在で、指数構成銘柄(27銘柄、2022年6月末時点)のうち、**24社の発表が終了しており、前年比での増配が15社、横ばいが9社、減配は0社**となっています。

＜S&P MLP 指数の構成銘柄*の分配金額(前年比)の動向＞



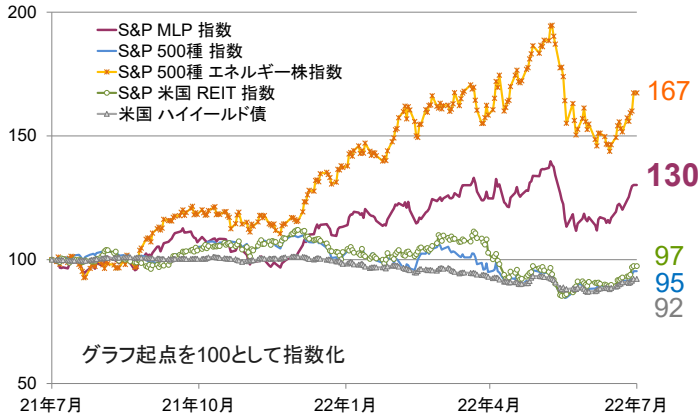
※ 左記の数値は四捨五入の関係で合計が100%と
ならないことがあります。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

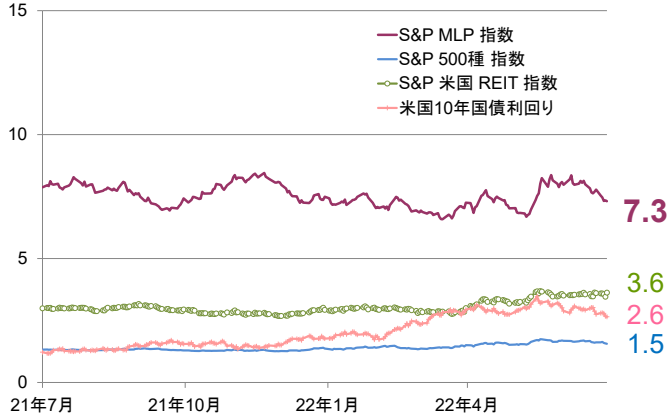
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2021年7月末～2022年7月末)



■過去1年の各資産の利回り

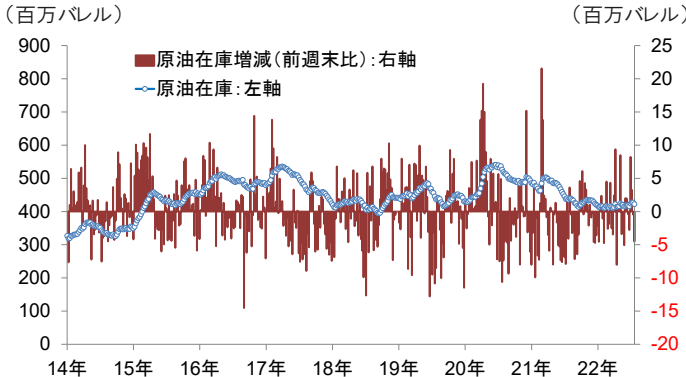
(2021年7月末～2022年7月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

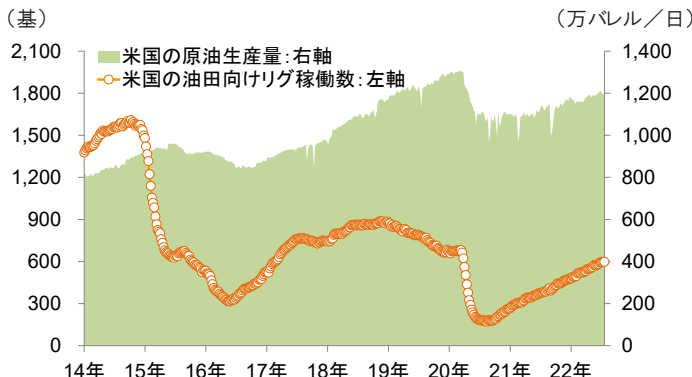
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年7月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年7月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2022年7月29日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。